

図書館だより



no.241

2023(令和5)年6月6日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<https://www.library.fcs.ed.jp/>



展示のご案内

<企画展示>

福島県文化財センター白河館まほろん移動展示

『U(アンダー)15の考古学』

県内各地から出土した縄文・弥生時代の資料を展示し、小学6年生が学ぶ歴史の教科書とリンクさせながら、当時の人たちの生活を分かりやすく紹介します。また、考古学とはどういうものかを、イラストやジオラマを用いて紹介します。

期間:6月2日(金)から7月5日(水)まで

場所:企画展示コーナー

<ミニ展示>

『村上春樹特集』

6年ぶりに村上春樹さんの長編新作が発表され、話題になっています。過去に村上春樹さんが特集された雑誌をご紹介します。

期間:6月2日(金)から8月2日(水)まで

場所:軽読書コーナー

<ロビー展示>

「本はともだち」「絵本はともだち」

当館発行のブックリスト「本はともだち」「絵本はともだち」の中から、本を紹介します。

期間:6月2日(金)から7月5日(水)まで

場所:ロビー展示コーナー

イベントのご案内

令和5年度 第1回 福島を生きる講座

『吾妻山噴火から130年 ―火山の怖さ・火山の魅力―』

福島市からよく見える吾妻山は、最近も噴気を高く上げています。この山が1893年6月に噴火をし、研究者が二人亡くなりました。今回は、この吾妻山の噴火の歴史や自然、そして火山防災についてお話をします。

日時:6月24日(土) 14時から15時30分まで

場所:福島県立図書館 第一研修室

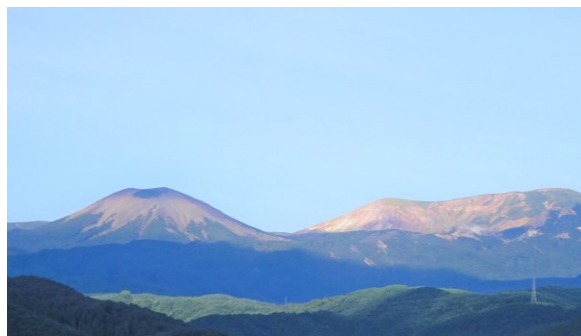
定員:50名(事前申し込み制)

申込:以下のいずれかの方法でお申込みください。

電話(024-535-3220)

来館(総合案内カウンター)

予約フォーム → → →



お願い

雨の季節が近づいてきました。本が濡れてしまうと、シミやページの波打ち、カビなどが発生するおそれがあります。雨が降っているときには、本をしまうためのビニール袋や口が閉まるバッグなどをご準備ください。皆さまのご協力をお願いいたします。

新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

人文・自然・社会

『「日本人の日本語」を考える プレイン・ランゲージをめぐる』庵 功雄/編著 丸善出版 2022.11 810/イ22Y

皆さんは「やさしい日本語」をご存知でしょうか？ 本書は難しい文章をやさしく言い換えた「やさしい日本語」について、言語学者やジャーナリストなど様々な立場からまとめた論集です。本書では、「やさしい日本語」の中でも普段から日本語を話す人が、専門家の文章など難解な文章を理解できる言い換えとしての「やさしい日本語 (Plain Japanese)」を主なテーマにしています。公文書や企業の契約書などがなぜわかりにくいのか、わかりやすい文章とは何かといったことがまとめられています。様々な相手に「わかりやすい」文書を書く上でヒントになる一冊です。

『「老いない」動物がヒトの未来を変える』スティーヴン・N・オースタッド/著 黒木 章人/訳 原書房 2022.12 481.35/オス22Z

厳しい自然界にあって、意外にも「長寿」を獲得した生き物がいることは珍しくないそうです。野生動物にとって寿命とは命尽きるまで健康に生きぬいた時間を意味します。成長と老化が切り離せないのならば、長寿動物たちの生態や特徴を研究することは、わたしたち「ヒト」の健康寿命を探るヒントへとつながります。老化研究の第一人者である著者が、野生生物の寿命を測定する研究を通して紹介しています。

『日本人の愛したお菓子たち 明治から現代へ』

吉田菊次郎/著 講談社 2023.3 383.81/ヨキ233

バスチーやタピオカミルクティーにマリトッツォなど、スイーツの流行は次々に代わっていきます。それは今に始まったことではなく、日本では明治時代から現代に至るまでたくさんのお菓子が生まれ、流行し、時に消えてきました。本書では、かつて大流行したお菓子の誕生秘話や時代背景を有名フランス菓子店創業者である著者が解説します。懐かしのお菓子を通して日本の文化史をたどることのできる一冊です。

児童・児童図書研究

『こころのねっこ』読売新聞生活部/監修 中央公論新社 2022.12 J/911.56/ヨ

読売新聞の人気コーナー「こどもの詩」の55周年を記念して出版された詩集です。本著は2017年に出版された『ことばのしっぽ』の続編にあたります。2017年1月から2021年12月までに掲載された作品のうち、220編が収録されています。

子どもたちの常識にとらわれない、みずみずしい感性から生まれるまっすぐな思いやエネルギー溢れる言葉は、大人の読者に驚きを与えてくれます。また、コロナ禍を受けて投稿された詩は、子どもたちのやり場のない怒りや、悲しみ、疑問などを切々と表現しています。短い詩に込められた子どもたちの思いに耳を澄ましてみてください。

雑誌・新聞

今年度から当館で新しく購入を始めた雑誌をご紹介します。ぜひご利用ください。

『チャイルドヘルス』 診断と治療社 Z493.9/C1
月刊 2023年4月号 (通巻295号) より購入

『日経コンストラクション』 日経BP Z510.5/N1
月刊 2023年4月号 (通巻793号) より購入

『将棋世界』 日本将棋連盟 Z796/S2
月刊 2023年5月号 (87巻5号) より購入

『スピン』 河出書房新社 Z910.5/S29
季刊 2022. autumn (1号) より購入

『LISN』 キハラマーケティング部 Z010.5/L2
季刊 2023年夏号より購入予定

地域

『孤塁 双葉郡消防士たちの3・11』(岩波現代文庫)
吉田 千亜/著 岩波書店 2023.1
LS369.31/Y17/2-2

東日本大震災の救助活動、原発内部での火災対応に携わった福島県双葉郡の消防士を描いたノンフィクションです。他県からの応援を得られず、生命の危機にさらされる状況下で、彼らは何を思い救援活動にあたったのか。孤独な中、懸命に闘った消防士たちの葛藤が克明に記された一冊です。講談社本田靖春ノンフィクション賞を受賞し話題を呼んだ内容に、新たなエピソード『「孤塁」その後』を加えた文庫版です。

『新地方論 都市と地方の間で考える』
小松 理虔/著 光文社 2022.10 L601/K10/1

いわき市在住の著者が、「観光、居場所、政治、メディア、アート、スポーツ、食、子育て、死、書店」という10のテーマについて、いわきでの暮らしをもとに、自分なりの目線で記した地方論です。この本では、誰かの語る「都市か地方か」ではなく、著者自身が実際に見て感じている地方の暮らしが描かれています。「はじめに」に「もっともっと多くの人たちに、いま住んでいる地域や、大好きな土地のことや、ふるさとのことを語り、論じてほしいのだ。」とありますが、この本を読むと、自分の住んでいる地域について改めて思いを巡らせるきっかけとなるかもしれません。